



©Yuki Asada

カギ編みストールであたたかに

手元には小さなカギ針と真っ白なシルクの糸。ウガンダの首都カンパラから1時間、豊かな自然が広がる町カワンダで暮らす女性たちは、今日も朝から忙しそうだ。「シルクのストールを作っているのよ」。そう話す顔に、自然と笑みが広がる。

今から約4年前、青年海外協力隊員としてこの国に赴任した富士雅子さんは、地元の女性たちと2年間、現金収入につながる製品作りに取り組んだ。その一つが先輩隊員から受け継がれたストール。あまり知られていないが、ウガンダの女性たちは手先が器用なのだ。

まずは糸の準備から。手作業で丁寧に紡がれた糸が、一本一本、カギ針で編み込まれていく。完成したストールは身

近な草花を使って、何とも繊細な色合いに染め上げられる。

全て手作りのため、色も模様も1点1点異なり、作り手の個性が出てくるのも魅力。使えば使うほど肌になじみ、使う人に合った特別なモノに育っていく。作る人たちの愛情と喜びがたくさん詰まった製品だ。

日本人たちにもウガンダシルクの魅力を伝えたい。富士さんは帰国後に「UG silk」を立ち上げ、日本に仕入れて販売を続けている。「もっと日本人の好みに合うようなデザインを提案して、みんなの生活がより幸せにあふれたものになりたい」。ウガンダの女性たちとつくり出す夢は広がるばかりだ。



カギ針を動かしながら、女性たちのおしゃべりもはずむ

★ストールを3人にプレゼント! →詳細は38ページへ

